

審議会における主な御意見・議論等 【平成30年4月20日時点】

1 基本計画（素案）追加諮問分「基本計画推進のために」に係る審議会における主な御意見・議論等

※「追加諮問分」…第8回特別委員会（H30.2.6開催分）【資料8】と同一

※「検討資料」…第8回特別委員会（H30.2.6開催分）【資料9】と同一

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	【資料2】 反映箇所	備考
1. 基本計画の進行管理	1	「追加諮問分」P.2 図表Ⅳ-1「PDCAサイクルによる進行管理の流れ」は、矢印を90度回転させた方が良い。Plan（計画）から始まるように示す必要がある。	御意見を踏まえ、Plan（計画）から始まるよう修正。	P.24 図表Ⅱ-1	-
3. 財政運営の基本方針	2	「検討資料」について、経常収支比率や公債費比率など、大阪府内の同規模団体との比較が行われているが、全国平均や類似団体の平均と比較するべきではないか。	「大阪府内の市平均」を「全国同規模団体の平均」に変更。	-	※関連資料 資料7 図表Ⅱ-2、5、 6、8、10
	3	普通会計ではなく一般会計でまとめているが、その場合、赤字になりやすい国民健康保険事業などの社会保障関係経費が、一般会計の中にほとんど含まれない。「財政運営の基本方針」の冒頭で社会保障関係経費について触れており、そのあたりのミスリーディングが生じる可能性を踏まえたうえで、言及する必要がある。	収支見通し等について一般会計でまとめているが、特別会計への繰出金について、特別会計の負担の伸びをある程度想定した推計を行っている。	-	-
	4	<ul style="list-style-type: none"> 「追加諮問分」では、これまで吹田市が臨時財政対策債を発行していたかどうか、また、「発行しない」ということがどのような意味を持つのかわからない。「検討資料」にも説明がない。 「検討資料」P.1 図表Ⅱ-1「歳入（一般会計）の推移」の市債のうち、規模は小さいと思うが、臨時財政対策債の額を示してはどうか。 	検討資料 P.1 図表Ⅱ-1において、市債のうち、発行した臨時財政対策債の額を（ ）内に追加し、本文に説明を追加。	-	※関連資料 資料7 P.1「1.歳入」 本文及び図表Ⅱ-1

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方(案)	【資料2】 反映箇所	備考
3. 財政運営の基本方針	5	<ul style="list-style-type: none"> 公債費比率の目標を10%以下としているが、現状の8%から悪化することになる。ある程度シビアに見てもいいのでは。 市債残高は67.3%とよい水準にもかかわらず、それを緩めるような目標設定となっている。100%とするのは緩め過ぎではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 公債費比率及び市債残高の目標値については、市債を発行するうえでの上限として設定している。財政運営の基本方針では、財政の健全性を維持していくことに加えて、本市の魅力を増すため、「将来への必要な投資」を行うことも掲げている。また、今後、公共施設の更新等が集中する中で、市債発行額が増加する可能性が高い。そのような中、市債発行を今後どこまで行ってよいかの目安として目標値を設定している。 目標値については、本市の過去の実績を勘案するとともに、同規模団体の水準と比較して検討している。現状の公債費比率及び市債残高の比率は、府内または全国の同規模団体と比較するとかなり低い水準にあり、それぞれ目標値（公債費比率10%、市債残高の比率100%）になった場合でも、なお低い水準である。 上記の考え方がわかりやすくなるように、計画本文及び検討資料において、目標値の考え方に関する表現を全体的に修正。 	P.27 3.財政運営の基本方針 (2) 目標	※関連資料 資料7 P.6~7
	6	<ul style="list-style-type: none"> 目標として経常収支比率や財政調整基金の残高、市債管理のことが書かれているのに、「追加諮問分」P.7 図表Ⅳ-3「収支見通し（一般会計）」にはこれらの記載がない。 市債残高の目標値を「標準財政規模以下」とするなら、標準財政規模に対する市債残高の割合を示す必要がある。 	目標値については、財政の健全性を維持していくための財政運営上の目安となる指標を設定。一方、収支見通しは、財政運営の参考として、性質ごとに一定の条件を設定し、現時点での今後の見通しを大まかにシミュレーションしたものを掲載しているものであり、シミュレーション上での目標値の推移までは掲載しない。	-	-
	7	<ul style="list-style-type: none"> 目標における、財政調整基金の残高に関する記述について、「急激な経済情勢の変化、大規模災害の発生などに備える観点から」とあるが、そのような観点から、100億円という目標値の妥当性について試算があるのか。 「概ね100億円を確保し、その用途としては、急激な経済情勢の変化や大規模災害への対応などが考えられる」というのが正確な表現。「〇〇の観点から、財政調整基金を基金として確保していきたい。その規模は、他の同規模団体にならって、概ね100億程度を目標とする」と分けて書く方がわかりやすいのでは。 	目標値については、本市の過去の実績を勘案するとともに、同規模団体の水準と比較して検討。また、検討資料に同規模団体の水準を示す図表を追加するとともに、目標値の根拠を記載する。	P.27 3.財政運営の基本方針 (2) 目標	※関連資料 資料7 P.6~7

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方(案)	【資料2】 反映箇所	備考
3. 財政運営の基本方針	8	<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支比率等について、市民にとってわかりやすくなるよう説明をかみ砕くことも考えられるが、かみ砕き過ぎると誤解を招く恐れがある。 ・「追加諮問分」では、「検討資料」の説明が多く省略されている。「追加諮問分」の内容を「検討資料」の説明を踏まえて補足することで、市民にも読みやすくなるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見を踏まえ、目標の考え方がよりわかりやすくなるようできる限り平易な表現で示す等、文章全体を修正。 ・数値目標の根拠については検討資料において追加。 	P.27 3.財政運営の基本方針 (2) 目標	※関連資料 資料7 P.6~7
	9	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値の根拠がわからないので、説明していただいた方がよい。 ・目標はわかりやすく表現し、「経常収支比率が概ね95%以下なら、妥当な水準と思われる」という判断までを「追加諮問分」に記載し、95%以下という数字の根拠は「検討資料」に記載するなど、工夫を。 			
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・経常収支比率は、歳入・歳出の収支の中での自由度を表す指標。財政調整基金の残高は、備えに関する指標。市債管理は、借金体質の状況を示すための指標。この3つの目標で、市全体の財政運営のポイントを概ねカバーできている、ということが言えるのではないかと思うが、それが端的に記載されていれば理解しやすい。 ・目標については専門用語ではなく、「借金体質にならない」などの日常語でかみ砕いた表現をしてはどうか。また、「弾力性のある財政構造」よりも、「臨機応変に対応できる体質」の方がわかりやすい。目標をかみ砕いて表現したうえで、具体的な指標としては経常収支比率等の専門用語をおく、などの工夫が考えられる。 ・「追加諮問分」では目標をかみ砕いた表現で示し、数値目標については、「検討資料」に記載することとし、「追加諮問分」では必ずしも記載する必要はないのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見を踏まえ、目標の考え方がよりわかりやすくなるようできる限り平易な表現で示す等、文章全体を修正。 ・数値目標は財政の健全性を維持していくための財政運営上の目標や考え方を示すため、検討資料だけでなく計画本文にも記載する。 	P.27 3.財政運営の基本方針 (2) 目標	※関連資料 資料7 P.6~7

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	【資料2】 反映箇所	備考
3. 財政運営の基本方針	11	<ul style="list-style-type: none"> 「追加諮問分」P.7 図表Ⅳ-3「収支見通し（一般会計）」は、歳入歳出ともに平成34年以降動きがないうように見える。人が増えるとゴミの量や学校の教室数が増えるなどして、歳出も増えるのではないか。 扶助費は年々増えている。人口の増加は行政サービスの費用に影響するので、その費用が増えていることを鑑みると、人口変動の影響が見てとれる。一方で、計画的な借入と返済により、公債費が減少するなどしており、限りある財源の中で歳入と歳出の均衡が図られている。 	歳入・歳出の枠は大きく変わらないが、その中で、少子高齢化の進展や今後の人口の増減、「公共施設総合管理計画」等を踏まえた今後の見通しをシミュレーションしている。	-	-
【附属資料】地域の特性	12	<ul style="list-style-type: none"> 住んでいる人の中で「地域」の考え方が異なっている。【附属資料】「地域の特性」で示す6つのブロックに、一律に分けてしまっているのか。 「地域の実情に応じた圏域設定を検討する必要がある」という考え方があり、参考として、6つのブロックで地域の特性を示していることをそのまま理解してもらうのは難しい。かなり工夫して書いていただく必要がある。 	第4次総合計画では、基本計画本文において、地域の特性を生かしたまちづくりを進めるため、取組ごとに地域の実情に応じた圏域設定を行う必要があるという考え方を示している。そのうえで、【附属資料】「地域の特性」では、地域別の取組を進めるにあたっての参考情報を、第3次総合計画地域別計画と同様に、6つのブロックでとりまとめ、掲載している。御意見を踏まえ、圏域設定についての考え方がわかりやすくなるよう、表現を修正する。	P.78 附属資料 Ⅱ. 地域の特性 (第2段落)	-
	13	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の特性」は何を対象としているのか。施設、組織、人口、何を分析しようとしているのか。分析したものをどう展開しようとしているのか。漠然としている。 【附属資料】「地域の特性」は、何を明らかにするためのものか、もう少し明確になればと思う。 	第4次総合計画では、基本計画本文において、地域の特性を生かしたまちづくりを進めるため、取組ごとに地域の実情に応じた圏域設定や地域の特性・課題の分析・把握を行う必要があるという考え方を示している。そのうえで、【附属資料】「地域の特性」では、地域別の取組を進めるにあたっての参考として、各地域の歴史的背景やまちの様子、人口や高齢化率など、各分野で共通して把握しておくべき基礎的な情報を示している。御意見を踏まえ、【附属資料】の掲載目的がわかりやすくなるよう、表現を修正する。	P.78 附属資料 Ⅱ. 地域の特性 (第1段落)	-

2 基本構想（素案）及び基本計画（素案）の全体調整に係る審議会における主な御意見・議論等

※基本構想(素案)【平成29年4月5日版】、基本計画(素案)【平成29年12月21日版】をもとに、全体調整の審議を行いました。

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方(案)	【資料2】 反映箇所	備考
Ⅲ. 策定の背景 2. 吹田市の特徴	14	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想(素案)の7ページ、図表Ⅱ-2「流入・流出人口の様子」は、昼夜間における人口の流入・流出を示すものであるが、この図表から何を読み取ってほしいのかわかりにくい。 住みやすい住宅都市として選ばれてきた都市であるということを示すのか、通勤・通学でいろんな人が入ってきているということを示すのか、読み取り方を間違えない工夫が必要。 図表番号を本文中に記載がないために、図表の印象がひとり歩きしているのでは。図表と本文の対応がわかるようにする必要があるのでは。 	<p>基本構想(素案)の図表Ⅱ-2は、住宅都市でありながら、多くの通勤・通学者を受け入れている様子を示すものであり、御意見を踏まえ、意図がわかりやすくなるよう本文等を修正。</p> <p>また、本文中に対応する図表番号を記載。</p>	<ul style="list-style-type: none"> P.9 (4)複合型都市 本文 P.10 図表Ⅲ-2 全体にわたって図表番号を掲載。 	-
Ⅳ.吹田市の将来像 1.将来像	15	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりには市民や地域の取組が重要であり、その取組を行政が支援していく必要があるが、将来像にはそうした行政の姿勢が示せていないのではないか。 地域の取組を支えるとともに、市民の活動に学びながら、行政のやるべきことを考えていくという2つの意味を入れると、協働の意味が生きてくるのではないか。 	<p>御意見を踏まえ、第1段落及び第4段落を修正。まちづくりにおいて市民や地域の取組が重要であることを示すとともに、市民と行政とがそれぞれの役割と責任のもと、地域の課題の解消に向けた取組を進めることが重要であることを追記。</p>	<p>P.14 Ⅳ.吹田市の将来像 1.将来像 第1段落 第4段落</p>	-
	16	<p>総合計画の方向性に沿って個別の計画を作成するならば、将来像の部分では「〇〇が重要である」と表現とするよりも、「〇〇する必要がある」として、より市の姿勢を強く示すほうが良いのではないか。</p>	<p>御意見を踏まえ、第4段落の表現を修正。</p>	<p>P.14 Ⅳ.吹田市の将来像 1.将来像 第4段落</p>	-
	17	<p>公共施設の老朽化対策に関する記述について、「公共施設」が、学校などの一般建築物だけでなく、道路や上下水道などのインフラ施設を含めていることがわかるように示すべき。</p>	<p>御意見を踏まえ、「学校や道路、上下水道など」として、例示を追加。</p>	<p>P.14 Ⅳ.吹田市の将来像 1.将来像 第3段落</p>	-

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	【資料2】 反映箇所	備考
IV.吹田市の将来像 1.将来像	18	<ul style="list-style-type: none"> ・第5段落にある「市民がすこやかで安心・快適に暮らし続けられるまち」という文章は整理が必要である。市民の暮らしは、第一に安心があり、その上で、すこやか、快適に暮らせる環境ができているという前提で考えるべき。 ・全国、大阪府内と比べても吹田市の実情は、自慢できる内容になっている。タウンミーティングの場では、市長自ら吹田の現状や強みについて説明されている。 ・キャッチフレーズについては、掲載すべきかどうかを含めて検討する必要がある。なお、掲載するのであれば、公募等で決めるのではなく、これまでの議論を踏まえて審議会において、キャッチフレーズを検討するほうが良いのではないか。 ・キャッチフレーズを掲載するのであれば、文章で誤解のないように表現する必要があるのではないか。 ・将来像本文の第5段落で、将来像の内容を集約できていると考えられるため、キャッチフレーズを掲載する必要はないのではないか。 	御意見を踏まえ、将来像のまとめである第5段落について、よりわかりやすくなるよう全体的に表現等を修正。また、第5段落で将来像を文章で集約していることから、キャッチフレーズは掲載しない。	P.14 IV.吹田市の将来像 1.将来像 第5段落	-